

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添	なし
----	----

応募概要	分野	音楽	種目	音楽劇
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	有	応募総企画数	3企画
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※	複数の企画を実施可能		

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	さかいしていおぺら いっぱんしゃだんほうじん		
	制作団体名	堺シティオペラ 一般社団法人		
	代表者職・氏名	代表理事(会長) 葛村和正		団体ウェブサイトURL
				https://sakai-city-opera.jp/
	制作団体所在地	〒 591-8037	最寄駅(バス停)	JR百舌鳥駅
		大阪府堺市北区百舌鳥赤畑町4-256		
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input checked="" type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
	ふりがな			
	公演団体名			
	代表者職・氏名			団体ウェブサイトURL
	公演団体所在地	〒	最寄駅(バス停)	
	制作団体 設立年月	1978年4月		
	制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等
		代表理事(会長) 葛村和正 代表理事(理事長) 坂口万里 副理事長 榊貴志 理事 9名		代表理事2、副理事長1、理事9、監事2、評議員24、一般会員318
	事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者 を置く	本事業担当者名	農澤明大
	経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	小林敦子
	本応募にかかる連絡先	メールアドレス		電話番号
		office@sakai-city-opera.jp		0722541151

制作団体の実績	制作団体沿革・主な受賞歴	<p>1978年 市民オペラとして活動を開始</p> <p>1986年 堺市民オペラ協会発足。以後毎年オペラ定期公演を上演</p> <p>1989年 堺シティオペラと改称</p> <p>1995年 ドイツのケム ニッツ歌劇場と『魔笛』を共同制作し、堺とケムニッツの2カ所で公演</p> <p>2003年 第18回定期公演「三部作」音楽クリティッククラブ賞・佐川吉男音楽賞受賞</p> <p>2004年 第19回定期公演「ファルスタッフ」三菱信託音楽賞奨励賞受賞</p> <p>2006年 イタリア ブッチーニフェスティバル(共同公演) ブッチーニ作曲『蝶々夫人』日本の音楽団体として初めての参加</p> <p>2009年 法人格取得 一般社団法人に移行</p> <p>2012年 第27回定期公演「ちゃんちき」三菱信託音楽賞奨励賞受賞</p> <p>2013年 オーストリア ウィーン公演(共同公演)「日本のオペラ&狂言コンサート」林 光 作曲『おこんじょうり』</p> <p>2016年 第29回定期公演「黄金の国」音楽クリティッククラブ賞・佐川吉男音楽賞受賞</p> <p>2019年 オーストリア 日本・ウィーン国交150周年記念コンサート(ウィーン公演)</p> <p>2017年 第30回定期公演「カルメン」大阪文化祭賞奨励賞受賞</p> <p>2021年 第34回定期公演「アイダ」大阪文化祭賞受賞</p> <p>2022年 il Teatro L'alba L'amore「トウランドット」大阪文化祭賞受賞</p>
	学校等における公演実績	<p>文化庁巡回公演事業</p> <p>2020年度(巡回公演 6公演:ヘンゼルとグレーテル)、2021年度(巡回公演 9公演:ルサルカ)</p> <p>2022年度(巡回公演13公演:おこんじょうり) 2023年度(巡回公演7公演:おこんじょうり)</p> <p>2024年度(巡回公演2演目、26公演:おこんじょうり・ヘンゼルとグレーテル)</p> <p>2025年度(巡回公演6公演:電話&恋するくじら)</p> <p>堺市文化振興財団 さかいアートスクール事業</p> <p>2015年度(1公演:カルメン)、2016年度(1公演:ヘンゼルとグレーテル)</p> <p>2017年度(1公演:愛の妙薬)、2018年度(3公演:愛の妙薬・ヘンゼルとグレーテル)</p> <p>堺市舞台芸術体験による被災地支援事業(東北)</p> <p>2016年度(3公演:愛の妙薬)、2017年度(3公演:愛の妙薬)</p> <p>堺市文化振興財団 さかいミーツアート事業</p> <p>2019年度(3公演:演目ブリマドンナはどっちだ?)、2020年度(3公演:ヘンゼルとグレーテル)</p> <p>2021年度(2公演:ブリマドンナはどっちだ?)</p> <p>2022年度(2公演+ワークショップ5回:おこんじょうり)、2023年度(1公演+ワークショップ1回:愛の妙薬)</p>
	特別支援学校等における公演実績	<p>2023年度(青森県立浪岡養護学校)巡回公演2公演:おこんじょうり</p> <p>2025年度(香川県立善通寺支援学校、香川県立香川中部支援学校)巡回公演:電話&恋するくじら</p>

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有	
	※公開資料有の場合URL	https://youtu.be/K2WFCxL4AsA https://youtu.be/KGpaBcuFUQ0	
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID:	
		PW:	

別添

なし

【公演団体名 堺シティオペラ 一般社団法人 】

対象

小学生(低学年)

○

小学生(中学年)

○

小学生(高学年)

○

中学生

○

企画名

オペラ『愛の妙薬』～堺シティオペラオリジナルVer.～
全2幕(イタリア語上演)

企画のねらい

1600年頃 イタリアで誕生し、今日まで受け継がれてきた総合芸術である＜オペラ＞を極力本物に近い形で、＜オペラ＞を初めて観るであろう児童・生徒に、解かりやすく興味深いものとして紹介する。指揮者・演出家が作り上げるドラマとして再現するために、歌手達はその持てるテクニックを駆使して、作品に登場するキャラクターを表現し、鑑賞する児童・生徒の目が期待や感動でキラキラと輝舞台を演奏者・スタッフ一丸となって作り上げる。
学校公演でのオペラ鑑賞事業は、主に日本語の訳詞で行っているが、今回選択した『愛の妙薬』は、物語の内容もシンプルで理解しやすいこと、イタリア音楽の声の美しさに重きを置いたベルカントオペラの代表作であること、そしてなるべく本物に近い公演を鑑賞していただくことを重要視し、イタリア語で上演したいと考えている。
簡潔でわかりやすい字幕と登場人物にオリジナルキャストとして【今風の】役、“おしゃべリーナ”を配し、日本語で児童・生徒に寄り添い、常に児童・生徒と一緒に内容に触れたり一緒に考えていくという形で、進行をよりスムーズかつスピード感のある作品としてまとめ、感受性の強い児童・生徒がオペラとして親しみやすく鑑賞できるようサポートを行う。
単に鑑賞し知識を身につけるだけでなく、その感性に響く喜怒哀楽や避けては通れない人間のもつ心、これからの学校生活や人生の様々な困難に直面したとき、或いは夢を実現していく中で自分がどのように歩んでいくかを考える時に、音楽芸術の持つ力が少しでもその道しるべとなり心に残るような作品としたい。

演目概要・演目選択理由

声の美しさを最大限表現するベルカントオペラの代表作『愛の妙薬』は村一番の才色兼備な女性「アディーナ」とそれに憧れる少し気が抜けた「ネモリーノ」の恋愛ストーリー。自分に自信の持てないネモリーノは、何やら怪しげな薬売り「ドゥルカマーラ」から”飲むと瞬間に愛情を引き寄せることができる秘薬”を購入する。しかしそれはただの赤ワイン。当然惚れ薬の効果はないが、ネモリーノは全私財を投げ打ち、自分の命を顧みないほどの愛情でアディーナとの愛の成就を願い、偽の惚れ薬”愛の妙薬”を手に入れる。後に”偽物の愛の妙薬”のことで知り、ネモリーノの真の愛に気付かされたアディーナ。ネモリーノの純粋さや、どんな困難なことでも諦めずに想い続けることで本当の愛を得るというストーリーやアディーナの成長過程は子ども達にも一つの指標になると考えている。

児童・生徒の参加または体験の形態

物語の進行を日本語で説明する「おしゃべリーナ」という【今風の】役を作り、児童・生徒に寄り添った形で常に舞台の前で児童・生徒と関わりながら一緒に舞台上で起きていることを考える。単に演奏者とお客様という関係ではなく、その間におしゃべリーナをおくことにより、より参加型の舞台になり児童・生徒も能動的にオペラに入り込めるようサポートする。最後のシーンではドゥルカマーラと共に簡単なメロディーと一緒に合唱し舞台を締めくくる。歌手をはじめ、楽器演奏者や舞台スタッフ、学校の先生方の協力など生身の人間が協力し合って一つの音楽を造り、鑑賞する児童・生徒もまた表現者の1人1人であることをワークショップや本公演を通じて伝えていく。本公演では、ワークショップで学習したフィナーレの曲を、オペラの進行中に児童・生徒と舞台が一体となってオペラのクライマックスに運ぶ

児童・生徒の参加可能人数

本公演

参加・体験人数目安

～665名程度

鑑賞人数目安

～665名程度

本公演演目
原作/作曲
脚本
演出/振付

『愛の妙薬』(イタリア語上演・日本語字幕)
作曲:G.ドニゼッティ 脚本:F.ロマーニ
指揮:藤村知史 演出:坂口 菜里
18世紀の終わり、小さな村のお話。
村一番の高慢ききな娘、アディーナに恋するネモリーノ。そこに軍師ベルコーレが現れアディーナに目をつける。嫉妬するネモリーノはなす術無し。そこに惚れ薬を売るインチキ商人ドゥルカマーラが登場。ネモリーノは惚れ薬を有り金を叩いて購入するが、実はただの安物ワイン。しかしそのワインによって思わぬ方向に話が進んでいく。2人の若者の本当の愛が、このインチキ惚れ薬を“愛の妙薬”に変えてしまうのだろうか。
ピアノと弦楽四重奏とフルートにより、実際のオーケストラに近いサウンドで鑑賞していただく予定。

公演時間

60




分

出演者

【登場人物】
指揮:藤村 知史 アディーナ:浅田 真理子(予定)・村岡 瞳(予定) ネモリーノ:中島 康博(予定)・西影 星二(予定)
ドゥルカマーラ:池田 真己(予定)・松澤 政也(予定) ベルコーレ:榊 貴志(予定)・伊藤 友佑(予定)
おしゃべリーナ:高嶋 優羽(予定) おしゃべリーノ:鈴木 洋介(予定)
ピアノ:吉田 衣里(予定)・碓 理佐(予定)
1stヴァイオリン:阿佐 聖姫子(予定) 2ndヴァイオリン:橋本 龍(予定)
ヴィオラ:加茂 夏来(予定)・農澤 明大(予定) チェロ:池村 佳子(予定) フルート:滝山 奈央(予定)・日下部 愛美(予定)
出演者は上記を予定しているものの、公演日の決定していない現時点で確定することは困難である。

演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名)

総合演出:坂口 菜里 当法人理事長・エグゼクティブプロデューサー。プロデュースしたオペラ『カルメン』『アイーダ』『トゥーランドット』が大阪文化祭賞受賞。邦人作品も積極的に取り上げ、『ちゃんちき』『黄金の国』等で三菱UFJ信託音楽奨励賞をはじめ複数賞受賞。海外での記念公演や初演公演も重ねている。
キャスト:榊 貴志(予定) 新国立劇場オペラ研修所第5期生修了。第37回イタリア声楽コンクール・ミラノ大賞。ボローニャ音楽院留学。第27回奏楽堂日本歌曲コンクール第1位および中田喜直賞受賞。当法人副理事長。海外での公演も行っている。
キャスト:高嶋 優羽(予定) ローム・ミュージック・ファンデーション在在外研究生としてNYにて研鑽。兵庫県立芸術文化センター2012年度ワンコインコンサートNo.1アーティストに選出され、アンコール・リサイタルを開催。メディアへの出演も重ねている。

本公演・ワークショップの内容	本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人 数含む	出演者: 10 名 スタッフ: 12 名 合 計: 22 名		運搬		積載量: 3 t 車 長: 7 m 台 数: 1 台			
	本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込		有		前日仕込所要時間		3	時間程度
		到着	仕込		上演	内休憩	撤去	退出	
		8時	8時～12時		13時30分-14時30分	なし	15時～16時	16時	
		※本公演時間の目安は、概ね2時間分程度です。							
	本公演 実施可能日数 目安 ※実施可能時期につ いては、採択決定後 に再度確認します(大 幅な変更は認められ ません)。	6月		7月		8月		9月	
		15日		0日		0日		7日	
		10月		11月		12月		1月	
		20日		20日		20日		20日	
		※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				計		102日	
公演に係るビジュ アルイメージ (舞台の規模や演出 がわかる写真)									
									
※会場条件につ いて最低限必要 な条件がある場 合には、様式 No.4内「会場簡									
著作権、上演権等 の許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続の要 否			該当なし		該当コンテンツ名			
	該当事項がある 場合	権利者名			許諾確認状況				

別添

なし

【公演団体名 堺シティオペラ 一般社団法人 】

ワークショップの
ねらい

通常の学校音楽鑑賞教室などでは観客として公演を観て鑑賞することになり、受動的なコンサート体験になってしまいがちである。しかし、ワークショップでの実践的な経験を通して実際の公演に関わってもらいにより、この公演に自ら積極的に携わっているという感覚を実感し、その体験が子どもたちにとって能動的なものになることを期待する。プロの歌手や音楽スタッフと共に制作プロセスを体験し、交流することにより、このような職種がある事を認識してもらい将来のキャリアに対する視野を広げることも目的とする。ワークショップ体験を通して異文化や自分と異なる考えやアイデンティティを受け入れられる心を育てる機会となることを希望する。

児童・生徒の
参加可能人数

ワークショップ

参加人数目安

～660名

ワーク
ショ
ップ
の
内
容ワークショップ
実施形態及び内容

オペラを身近に感じて、興味を持ち、説明や演奏を聴くだけでなくオペラを体験することを目的としたワークショップ。
[標準 45分のワークショップの場合]
①挨拶、団体紹介
司会を兼ねた歌手が登場し、スライドを用いて、挨拶と団体の紹介を行う。
②オペラ制作に関するレクチャー
オペラが「総合芸術」と呼ばれている理由を、スライドを用いて説明する。
歌手やオーケストラなどの演奏者だけではなく、指揮者・演出家・舞台・照明・衣装デザイナーの他、実際の舞台を動かす大道具・小道具・美術などに関するスタッフ、オーケストラの準備、ヘアスタイリストや劇場で観客と接するスタッフなど多くのスタッフが関わることによって華々しい舞台が作られることを伝え、人前に出ることだけでなく、オペラ全体を統括する制作スタッフなど、現場には表には見えない沢山の仕事があり、様々な分野の人が活躍して公演が成り立っていることを説明する。
③プロのオペラ歌手による演奏(2曲程度)
実際にオペラ歌手による歌唱を聴いてもらう。歌唱を聴くだけでなく体験してもらう。
『愛の妙薬』の公演をより本物のオペラに近づけるためイタリア語での演奏とするため、イタリア語へのアプローチとして、実際のオペラの劇場で使われ、素晴らしい演奏をした奏者を称える”Bravo!”という掛け声のレクチャーから導入することで言葉の苦手意識を減らし、リズム感のある楽しいイタリア語を楽しんでもらう。
◇重めの声のソプラノ歌手が指導に行く場合◇
日本を舞台にしたオペラ「蝶々夫人」より”ある晴れた日に”を、打掛(日本の伝統衣装でオペラの舞台でも実際に使われる着物)を着て演奏するが、希望した児童・生徒1名を指名しその打掛の着用を実際に体験してもらう。オペラ歌手は平気な顔で歌い演じているが実際はとても重い衣装を着ながら演唱していることを体感してもらうことで、そのプロフェッショナルリズムを知覚してもらう。
◇コロラトゥーラソプラノ歌手が指導に行く場合◇
オペラ「ホフマン物語」より”オランピアの歌”を聴いてもらう。“人形のアリア”として知られている曲で、オランピアというゼンマイ仕掛けの人形役の歌手が演唱するが、曲の途中でゼンマイが切れてしまい、巻き直すお芝居が入る。その部分を希望する児童・生徒1名に、“ラチェット”という楽器を用いてユーモラスな人形のアリアをより愉快的な曲とする手助けとして参加してもらう。難しいお芝居や楽器の演奏がなくてもオペラの登場人物になれることを体験してもらい、オペラをより身近に感じてもらう。
また、声種によって音色の違いを伝えるため男声歌手の演奏も紹介する。華やかなドレスを着て演奏する女声歌手に比べ、男声歌手は衣装による制約が少ないため、現場の状況にあわせて、児童・生徒の列の中に入って演奏することで、体を使った歌唱を感じることができる。演奏する曲はテノール(声の高い男声歌手)の場合、ベートーヴェン作曲交響曲第九番をアレンジして作られた曲”希望の歌～交響曲第九番～”。バリトン(声の低い男声歌手)の場合、世界で最も上演されていると言われているオペラ「カルメン」より”闘牛士の歌”を演奏する。この2曲はどこかでメロディーを聴いたことがある児童・生徒が多く、クラシックの曲は意外と身近なところにひそんでいることを紹介し親近感を持ってもらうための選曲である。
実際にマイクを通さずに体育館いっぱいに響き渡るオペラ歌手の声を間近で感じることで人間の肉体の持つ可能性やオペラ歌手がトレーニングを積んで身につけた技術を肌で感じてもらう。

	<p>④器楽による演奏 オペラをはじめ多くの声楽曲には楽器による伴奏がつく。オペラの場合、オーケストラ伴奏で作られた作品が多いため、オーケストラの中で最も人数の多いヴァイオリンの演奏を鑑賞してもらう。歌では肉体的に不可能な技巧的な演奏や普段間近で聴く機会の少ない多彩な音色を耳にすることにより新たな感性を育むことを目指す。</p> <p>⑤歌唱指導 オペラ「愛の妙薬」の物語の途中の結婚式のシーンで歌われる合唱のパートを歌唱指導する。イタリア語はローマ字読みができるため、他の言語に比べ読みやすく、明るく楽しい響きを味わえる。ワークショップの参加者は、本公演の際、ワークショップで練習した曲を、ストーリーテラーの誘導のもと、結婚式の参列者として一緒に歌ってもらい公演のクライマックスを盛り上げてもらう。歌唱指導の際、小学校高学年や中学生は変声期を迎えた男子児童・生徒も多いため、抵抗なく声が出せることを配慮して、主に男声歌手による歌唱指導を行い、現場の状況に応じて女声歌手がサポートする。最後のまとめとして、指揮者を見て、同じ音楽感やリズム感で一体となって歌うことの迫力や喜びを体験してもらい、より一層音楽を作る楽しさを体験してもらう。</p> <p>⑥質問コーナー(60分の場合) 実際にオペラ歌手や楽器奏者の演奏を聴き、舞台の進行を体験した後に、実際に感じたことを質問することで理解が深まり、より興味を持って本公演を迎えることができる。加えて、舞台芸術の文化は、人間の持っている力でしか魅力を伝えられないクリエイティブな職業への興味関心を芽生えさせ進路の選択肢を増やす良い機会になると考える。 最後にワークショップに参加した児童・生徒全員と指導者全員とで合唱曲の”Believe”を演奏し、ワークショップを終える。</p>
<p>その他ワークショップに関する特記事項等</p>	<p>◆演奏者はスタッフを含め4～6人。 ◆ピアノを使用。 ◆実際に本公演を行う体育館での実施を希望。 ◆ワークショップ開始前に先生にご紹介いただき、最後には体育館退出の指示を出していただく。 ◆ワークショップの日程を設けられない場合に限り、本公演の前の時間に実施可能。</p>

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

【公演団体名】 堺シティオペラ 一般社団法人

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。

- ・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。
- ・搬入車両が構内に入れず、搬入のための追加費用が生じてしまった。
- ・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。

上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。

任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。

詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくこととなります。

なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

会場条件

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

学校からの情報

時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合については、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ					
ワークショップ						
本公演						
本公演						

個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。	
		個別ヒアリング事項	
	1	体育館近くに、飲食可能な控室(15名程度)・着付け用の控室の2部屋をご用意いただけますでしょうか。	
	2	ピアノの調律から半年以上経過している場合、本公演までに調律していただくことは可能でしょうか。	
3	校時表(時間割表)がございましたら、写真か文字情報でお伝えください。		

体育館の舞台

体育館 舞台

舞台袖

設置舞台

(ピアノを下に下ろせない場合)

パネル

スペースの確保が必要

10m

ピアノ設置位置

パネル

スペースの確保が必要

鑑賞位置

体育館 フロア

鑑賞位置

間口

後方

トラック

前方

フロア使用時

舞台袖

別添

なし

【公演団体名 堺シティオペラ 一般社団法人 】

本事業への応募理由等

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

【本事業を通じて実現したいこと】

日常生活の中でオペラ等の生の芸術に触れる機会の少ない中、学校でオペラを鑑賞できる機会は、とても貴重な体験となります。しかし、鑑賞するだけの公演ではオペラの本質を十分に伝えきる事はできません。この巡回公演ではワークショップや公演を通して、児童・生徒の皆さんが積極的に芸術体験に関わることができ、総合芸術としてだけではなく、キャリア教育を基本とする人間力育成としてのオペラカンパニーの姿を発信していきたいと考えております。オペラは高尚な芸術として先入観を持たれ、敷居が高いと思われるがちですが、芸術教育は児童・生徒の人間力を育成するために必要不可欠であり、そして、そこで培う豊かな感性こそ、未来の世界を切り開く上で望まれている事であると啓発していく所存です。

また、コロナ禍により、ワークスタイルやライフスタイルなどがインターネットの活用などによってデジタル化されてきています。しかし、人間の情操教育は人々が集まり、同じものを観て、違うものを感じて、その差異を共有してこそ、お互いの理解が生まれると信じています。この公演を通して、同じ場所で同じものを観て、その経験を語り合い、その結果このデジタル化されていく世の中では学べない、人間としての大切な感情を育てて行きたいと考えております。

数ある公演の中でも、子どもたちに初めての本物のオペラとの出会いを届ける本事業こそ、これからの日本における芸術文化の未来にとって、最も重要であると考えています。

【上記の実現に向けて、実施の工夫】

沢山の公演を経験してきている関西の中堅歌手、堺シティオペラの子どもたちのためのオペラプログラムを担当している若手歌手、海外で音楽活動をしている音楽スタッフをバランス良く配置する事により、全ての分野に於いてクオリティーの高い結果を提示できるようにしています。本番では舞台スタッフを用意する事により、限られた条件を最大に活かしての演奏効果が臨める舞台を作ることができ、子どもたちが安心して公演を楽しめるよう配慮しています。舞台については、A区分と比較すると少し簡略化はされるものの、ハリボテの舞台装置ではなく、プロの舞台・照明チームと力を合わせて、各学校の体育館がいつもの体育館とは異なる空間になるように心がけることにより、子どもたちの集中力もより高めるようにしています。

事業を適切かつ円滑に実施するための工夫

【学校との連絡調整について】

まず初めに、日程調整と挨拶を兼ねて一度電話にて連絡をしています。その後、過去に実施した経験を活かし、学校側に不明点が残らないよう、細かな説明を施したメールを送るようにしています。メールへの返信がない際には、改めて電話をするなどの対応をしています。ただし、メールでの連絡に全ての情報を盛り込んで逆には伝わり切らないこともあるため、ワークショップの際に細かい情報を確認するようにしています。学校への負担が大きくなりすぎないように、簡潔な連絡を心がけています。

【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

学校及び学年によって、児童・生徒の性質は異なります。盛り上がりやすい学校、シャイな子どもが多い学校、など様々です。ワークショップの際に児童・生徒の特性を把握し、事前に本公演のキャストに伝えることで、各学校における聴衆への呼びかけや演出に変化を持たせる工夫を行なっています。

また、小学校公演、中学校公演、支援学校での公演と、年齢層によっても演出に変化を持たせ、より聴衆への演奏効果・教育効果が高くなるように努めています。

【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

ワークショップ及び本公演での実践的且つ主体的な鑑賞経験を通して、その体験が子どもたちにとって能動的なものになることを狙います。プロの歌手や音楽スタッフと共に制作プロセスを体験し、コミュニケーションを取ることで、このような職種がある事を認識してもらい将来のキャリアに対する視野を広げることも目的とします。また、オペラという総合芸術について学んだ経験が、その後の音楽鑑賞における視野も確立し、生涯を通しての継続的な学びにも繋がります。